

開放進まぬ北朝鮮にやきもき

中国の国境都市 丹東

中国最大の国境都市・丹東は、鴨緑江をはさんで朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)の新義州と向かい合っている。金日成主席の突然の死から八日で一年。国境貿易は増加しているが、北朝鮮の開放は期待したほど進んでいない。一方で韓国企業の積極的な進出が目立つ。市民は、開放の遅れに失望を感じつつも、北朝鮮が経済的に繁栄し、丹東も香港に接する深圳のように発展することを望んでいる。

(丹東へ中国遼寧省へ鴨緑江義人)



開港が進む丹東(手前)に比べ、鴨緑江をはさんだ対岸の北朝鮮・新義州はひっそりとしたたたずまいを見せる。鴨緑江写す

夢は香港の対岸「深圳」 金正日氏に期待したが 進出企業は韓国ばかり



鴨緑江にかかる大橋は日本が侵略時代に建設したものだ。鉄路と道路が走り、

小麦粉や古鉄などを積んだトラックが時々北朝鮮へ向かう。共同管理の川面では中国の観光客を乗せたモーターボートや船が対岸の水際まで動き回っている。夜の川は、さらににぎやかだ。やみに紛れて北朝鮮の日本製中古車と中国の物資が交換されているという。丹東の前市長は沖合で

だ。大連や瀋陽からも運ばれ、税関が二十四時間態勢でまわっている。今でも中国から花束を持って帰る人が多いという。中国を訪れる北朝鮮の人たちは、一九九三年の核不拡散条約(NPT)脱退宣言から減り始め、金主席死去後は制限が厳しくなった。丹東に駐在する北朝鮮のビジネスマンは「韓国の進出を探るスライム」だ。逆には六月末には商談が「割にのぼり、商売する」と損をする。カネもソウも払ってもらえないという声も起きている。

何よりの不満は開放政策が北朝鮮北部の羅羅・先鋒自由経済区に限られていることだ。中国では毛沢東主席の死後、鄧小平氏によって全面的な改革・開放政策が導入され、現在の経済発展につながった。金主席の後継金正日書記に鄧氏と同じような役割を期待したが、次第に失望に変わっていく。

吉林省の豆満江流域開発計画でも、意見の食い違いが出ている。北京の消息筋によると、日本海側に領土を持たない中国の船が豆満江経路で日

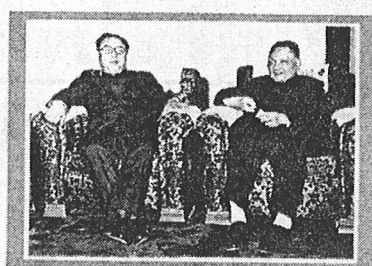
本海へ出る権利について、北朝鮮は八八年に口頭で同意した。しかし、九一年旧ソ連が同意する協定を結んで以降は逆に認めなくなっている。中国は「出海権は開発の重要な前提」と反発している。

丹東ではこのところ、韓国企業の進出が活発だ。進出企業五百二十社のうち昨年は九十社にのぼり、百九十一社の香港に次いで二位。日本を抜いた。北朝鮮は十四社にすぎない。

国有企業などは業績が悪く、赤字国営企業の労働者が毎日のように「給料を寄こせ」と政府機関に押しつけている。市民からは「景気が悪いのも金正日書記のせい。いっそ、朝鮮戦争に参加しなければよかった」といふ声も聞かれる。

とはいえ、丹東が北朝鮮の発展なしに立ち行かないことも確かだ。

平壤へ二百二十キロ、ソウルへ四百二十キロの近距離に位置し、東京、北京を結ぶ国際高速道路構想もある。対外経済貿易委員会の林民利副主任は「南北統一が実現すれば中国の表玄関として発展は間違いない。二十年後には実現するのではないかと期待する。」



金正日氏 KOREA 1995 50

韓国の中古車二百五十台を密輸入して解任された。汚染のない北朝鮮側の河砂が中国経由で阪神大震災の復旧工事に大量に輸出されているという話も聞いた。

金主席死去の後、目立ったのは葬儀や献花用とみられる大量の花の買い出し

丹東で売っていた一九九五年発行の北朝鮮の切手。故金日成主席と中国の最高指導者鄧小平氏の会談がデザインされている。

国境貿易はしかし、中朝貿易全体が減る中で、増加傾向にある。